

専念寺通信

専念寺通信

十一月号 (NO. 123)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

今年も残すところあと2か月となりました。平成になってからもう22年、時間のたつことの早さに驚かされます。専念寺のいちょうは、今年はお彼岸の終わるころからぎんなんを落としはじめました。

☆命と傷とその意味

最近、熊やイノシシ、猿などが町に姿を現わし、噛まれた人や怪我人が出て、しきりと報道されます。その原因として、里山がなくなって来たことがあげられています。木の実などを食べて生きてきた動物が、里山の消失によって、食べるものがなくなり、仕方なしに人の住む地域に下りてきているのだと。たしかに熊も猿も人間をエサとして考え、これを喰ってやろう！とばかりに襲って来ているのではありません。けれど、報道では人は「熊に襲われ」、そしてたいていの場合、熊は「猟友会によって射殺」されます。ただ、素朴な疑問として、なぜ殺すのか、殺す以外に方法がないのか、と思えます。長野県の一部の地区では、とらえた熊を山のふもとまで運び、唐辛子スプレーをかけ、おどかしてから山へ逃がす、という行動をずっと続けている組織があります。ついでに怪我也治療し、識別番号をつける場合もあるようです。秋が深まり、山からさまざまな動物が下りてくるたびに私たち人間は多くのことを試されます。どうして、冬眠前の熊はわざわざ命の危険をおかして私たちの前に姿をあらわすのか。そして、私たちは、とりあえずはどう対応したらいいのか。また、とりあえずではなく、長い目で見た場合、どうしていったらいいのか。はっきりしているのは、この責任は動物たちには無い、ということです。

最近、ある本で、アメリカの珍しい勲章について書かれているのを読みました。この勲章は「名誉負傷勲章」と呼ばれ、1932年にできました。戦争中に、敵の攻撃

によって負傷したり亡くなったりした人に贈られる勲章です。栄誉と同時に退役軍人病院で特別扱いをしてもらえる特典があるそうです。さて、最近、イラクやアフガニスタンの戦争に行ったあと、精神的にひどい傷を負って帰還する兵が増えたとのこと。この2つの戦争はかつてのベトナム戦争と少し似た側面があり、そしてそれより複雑です。誰が敵で誰が味方かわからない、そもそも何のために戦っているかわからない、いつ終わるのかもわからない、(アメリカが勝利宣言したあとも自爆する人が出ており、両国で死者が出ています。)さまざまな意味で、人間の心の深いところに傷を負わせる要素が多くあります。この勲章を、心的外傷後ストレス障害(PTSD)の人は受ける資格があるのか、という議論が出ているそうです。帰還後の自殺者の数を見れば、その心の傷の深さは想像できます。骨折などの傷にくらべて「診断は難しく、傷は深刻で完治に時間がかかる」PTSDは、しかし、この勲章の対象からはずされました。勇気がないから心に傷を負うのだ、というのがおおまかな理由のようです。すると、体の傷は名誉で、心の傷は不名誉なのでしょう。人間は目に見える傷には敏感ですが、見えない傷にはときに鈍感です。これはなぜなのでしょう。私たち寺の人間はどの傷も同じなのだと思います。心の傷は、話しているうちにふときづかされることがあります。アタマでっかちの私たち人間にも、有難いことにまだ、少しの勘が残っています。その人の気配で、しぐさで、息づかいで、それとなく分かるのです。包帯をしていなくともわかるのです。心の傷が不名誉とはどうしても思えません。私たちはそんなに強い存在でしょうか。この秋、命について、そして、命や傷がもたらすものについて、いろいろと考えさせられたことでした。今年号の写真是銀杏です。毎日、拾い、天気の良い日に洗って本堂前で干します。右上は取ってすぐの銀杏、ほかはすっかり洗われて日光浴中の銀杏です。今年には皆さまに恒例の「専念寺銀杏」を差し上げられそうです。寒さに向かいます。お風邪を引かぬよう…。

平成22年11月1日 大黒

